

ご自由にお持ち帰りください

さくらだより



さくら病院

SAKURA

日本医療機能評価機構認定



健・康・通・信

さくら病院の理念

愛の心と確かな医療技術を以って社会に奉仕する。

Vol. 50



院長
江頭 啓介

昨年6月に医療介護総合確保推進法が成立し、団塊世代の全員が75歳以上の後期高齢者となり、高齢化のピークとされる2025年に向けて、医療と介護提供体制への様々な施策が本格的に動き出しました。我が国では2008年を境に、既に人口減少が始まっております。東京オリンピックが開催される2020年には、東京でさえも人口が減り出すと予測されています。その一方、老人人口は増え続け、2025年には全人口の3分の1が65歳、そして5分の1が75歳以上になります。超高齢社会での医療介護は、医療、介護、予防、住まい、生活支援を切れ目無く提供する、地域包括ケアシステム構築と、在宅医療強化に向けての診療所の取り組み強化と、病院医療の再構築が中心となります。そして都道府県では、地域の事情に即した地域医療構想が作成されます。この様に大変大きな改革がこれから行われます。いわば新しい地域社会づくりが始まるというよいでしょう。さくら病院のような、地域社会に密着して医療を行っている病院の役割が、益々重くなるのだと思っています。皆様と一緒に、安心安全な地域作りに積極的に取り組んで参りますので、皆様のご指導とお力添えを何卒宜しくお願い致します。

どんな
病気？

胃・十二指腸潰瘍について

— 消化器病専門医 知念 正明 —

胃・十二指腸の壁が、攻撃因子(胃酸)と防御因子(粘液)のバランスが崩れ、深く傷つきえぐれた状態を潰瘍と言います。

原因は何か

潰瘍の原因としては、ヘリコバクター・ピロリ菌(らせん形でウレアーゼをもちアルカリ性のアンモニアをつくる細菌)の感染によるものが最も多く、次は非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)でロキソニンやバファリン等があります。また誘因としては、ストレス・過労・喫煙・飲酒・コーヒー・香辛料・冷たすぎる食べ物・消化の悪いものなどがあります。

症状は

上腹部の痛み、むねやけ・吐き気・嘔吐などがあり、潰瘍から出血すると吐血または下血(タール様便)がみられます。大出血・潰瘍穿孔を伴うと、緊急内視鏡的治療・緊急手術が必要なこともあります。

診断は

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)で行います。また生検(組織採取)を行い、組織鏡検法・ピロリ菌培養法・迅速ウレアーゼ法(ピロリテック)などでピロリ菌の診断を行ったり、胃癌との区別のため病理診断を行ったりします。

治療について

潰瘍出血や穿孔等があれば、緊急に内視鏡治療(写真①さくら病院患者)手術にての治療を行います。



写真①

一般的には抗潰瘍薬の内服治療が基本となり、次のような薬があります。

胃酸分泌抑制剤

プロトンポンプ阻害薬(PPI)…オメプラール、タケプロン、パリエット、ネキシウム
ヒスタミンH2受容体拮抗薬(H2RA)…ガスター、ザンタック、アシノン、プロテカジン

制酸剤

炭酸カルシウム、炭酸水素ナトリウム、マルファ、マーロックス

胃粘膜保護薬

アルロイドG、アルサルミン、プロマック、マーズレン

胃粘膜修復薬

サイトテック、ムコスタ、セルベックス

胃・十二指腸潰瘍の原因による 内服薬治療

①NSAIDsによる潰瘍

原則的にNSAIDsを中止し、PPI・ムコスタを処方します。

②ピロリ菌による潰瘍(除菌治療)

一次除菌(PPI+サワシリン+クラリス、7日間)

二次除菌(PPI+サワシリン+フラジール 一次除菌不成功の場合)

三次除菌(PPI+サワシリン+クラビットまたはグレースビット、保険適応なし)

除菌成功の判定は胃カメラ検査が要らない尿素呼気テスト(UBT)で行います。

③その他の潰瘍(非NSAIDs、非ピロリ菌)

PPIで潰瘍治癒を確認した後、維持療法としてH2RAを内服します。

当院での感染予防対策への取り組みについて

感染対策委員会

病院にはいろいろな感染症の患者さんが病棟に入院し、一方で免疫力の低下した患者さんも多く入院しておられます。入院によって、新たに感染症をもらうことは本来の必要な治療以外の治療が必要になってしまい、患者さんには大変な不利益をもたらします。また、院内感染予防対策は単に感染症対策だけではなく、病院内における患者さんと職員を守る医療安全対策とも深く関連しています。患者さんと職員を院内感染から守るため、当院では以下のような活動を行っています。

1. 院内感染ラウンド

各部署、全職種から選出された職員により感染対策チームを結成しています。この感染対策チームにより定期的に院内を巡視し、問題点を把握・調査し対応を行っています。

2. 職員への啓もう、教育

感染予防のため、院内感染予防対策ニュースの発行や年3回の全体研修会を開催しています。

3. 感染症サーベイランス

特定の感染症発症状況などの把握に努め、院内レポートを発行し全体で情報を共有出来るようにしています。

4. 感染対策委員会

上記活動に加えて、各部署、全職種から選出された職

員により、あらゆる感染予防策に対する協議を毎月1回行っています。

5. 感染対策手順

定期的に改訂を行い、院内感染予防対策の基盤としています。

しかしながら、以上のような活動を行っていても、重症な患者さん、侵襲性の高い処置、多忙な現場、そして多くの人と物が出入りする病院では、職員だけで100%の感染予防対策を行うことは決して簡単なことではありません。患者さん・ご家族そして職員が一緒になって感染予防対策をすることで、初めて限りなく100%に近づくことが出来ます。さて、誰にでも簡単に出来る感染予防対策とは?! そうです! 「手洗い!!」です。

最後になりましたが、これからも皆さんが安心出来る病院を目指し感染予防対策を推進してまいりたいと思います。

手洗いは

あなたを、患者さんを、

感染症から守ります

「手を洗いましょう!!」



リスクマネジメント委員会活動報告～ベッドサイド識別カードの導入について～

今年度4月から入院患者様全員に「識別カード」という患者様の移動状況や注意事項など必要な情報が書かれた札の表示が始まりました。何故使用するようになったかと言うと、福岡市内の病院で家族が患者に薬のみで水分を飲ませた際に誤嚥し肺炎で死亡する事例が発生、ベッドサイドに「絶・飲食」と表示しておらず分かるものがなかったことが原因でした。当院でも決められた「絶・飲食」のベッドサイド識別がなく、各部署の手順書での明記もありませんでした。暗黙のルールで各々の部署が対応しており、当院においても同様の事例が発生する可能性があると考えました。そこで、リスク委員会を中心に事故発生防止・注意喚起と院内における手順遵守の徹底を行い予防に努める必要があると判断し「ベッドサイド識別」の手順統一を行うことになりました。ベッドサイド識別の項目について、何を表示すべきかを皆で話し合い、『絶食・絶飲食、安静度、嚥下状態、食事形態、禁忌事項、行動制限』などを表示し、注意事項として「フリーコメント」を設ける等々様々な意見が挙げられました。最終的に、『食事制限・移動方法』はイラストで表示し、『食事形態・禁忌(アレルギーなど)事項・抑制に関する事(センサーマット使用など)・皮膚の状態』などは文章で表示

することに決定しました。ベッドサイドにある棚(床頭台)に掲示できるようにホワイトボードの準備やパネルを作成しました。昨年8月の全体研修会で全職員に周知し、9月1日より1内科病棟にある地域包括ケア病床(12床)で試験的に運用しました。11月の医療安全パトロールで適切にベッドサイド識別がされていること、絶飲食や患者誤認などのアクシデントが発生していないことを確認しました。その後、定例会で各病棟に意見を出してもらい、識別カードは必要な患者様のみで良いのではとの意見も出ましたが、全病棟全患者様で行うことが決まりました。今後は地域包括ケア病床(12床)で試験運用を行った際の手順に従い、今年度4月1日より院内全体で行うことに決定しました。ご入院中の皆様の安全の為、今後も頑張っていきたいと思っております。

【食事制限】	【移動方法】
	
絶飲食	車いす
⚠ 注意事項	
アルコール綿禁止	
トロミあり	
皮膚剥離注意	

医療サービスの基本方針

医療法人社団 江頭会 さくら病院は、「人を大切にすること」を基本理念として、良質の医療・介護サービスの提供と働きやすい職場づくりを行ってまいります。

そのために職員の人間性、知識、技術を向上させます。また、職員それぞれの能力を基盤とした組織づくりを継続的に行います。そのために以下の4点を推進いたします。

1. 患者、患者家族、地域住民の方々などの期待に応え、またその期待を超えるような医療・介護サービスを提供し、これを常に改善していきます。
2. 他の医療機関・介護施設との連携を行い、さくら病院の持つ医療・介護機能を地域の為に役立て、切れ目のない医療・介護サービスを実現します。
3. 地域包括ケアシステムの中核となる、地域に根ざした内科主体の病院として、地域住民のための疾病治療・疾病予防・健康増進活動を推進します。
4. 法令・規制要求事項などを的確に把握し、遵守します。

2014年3月25日 医療法人社団江頭会 さくら病院 理事長 江頭 啓介

病院の診療指針

- 1、一期一会を大切に
- 2、友愛ともにいたわりともに励ます
- 3、医療は信頼から
- 4、多忙な中にも対話を忘れずに
- 5、医療サービスは深い思いやりをもって
- 6、慢心は敵、安全医療に徹する
- 7、快適な職場づくりは
ひとりひとりの心掛けから
- 8、救急協力は無償の愛をもって
- 9、向上心をもって医療に取り組む

看護サービスの基本理念

- 1、患者様との触れ合いを大切にし、安全で思いやりのあるケアを行う。
- 2、医師及び他部門と協働し、働きやすい職場づくりを行う。
- 3、看護・介護の質の向上をめざし、自己研鑽を重ねる。
- 4、地域・医療・福祉との連携を図り、継続したケアが提供出来るよう取り組む。
- 5、社会の変化に対応し、柔軟な発想で業務改善を行う。

さくら病院の患者権利7カ条

- 1、だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2、だれもが、一人の人間として、その人格、価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
- 3、病気、検査、治療、見直しなどについて、理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受け、治療方法を自分の意思で選ぶ権利があります。

さくら病院の職員は、患者様とのコミュニケーションを大切にし、患者様の理解を助け、納得が得られるように努めています。また、治療方法の選択については患者様の意思を尊重いたします。なお、別の

医師の意見（セカンドオピニオン）をお聞きになりたいという御希望も尊重いたします。

4、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者様とさくら病院は診療情報を共有しつつ、共同作業者として治療を進めてまいります。

5、診療の過程で得られた個人情報、秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

さくら病院は、個人情報、秘密の保持や私生活をみだりにさらされないようにという患者様のプライバシーの権利について、厳正に取り扱ってまいります。

6、納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けても良く理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する権利があり、同時に治療の指示を守る義務があります。

患者様が、治療等に関する十分な説明や情報提供により納得のいく医療を受けていただくために、そして治療法等を自分の意思で選択していただくためにも、分からないことがあれば何度でもさくら病院職員に質問して下さるようお願いいたします。

7、すべての患者様が適切な医療を受けられるようにするため、患者様には、他の患者様の治療や病院職員による医療提供に支障を与えないように配慮する義務があります。

病院では、職員が数多くの患者様に様々な医療を提供しています。そのため、患者様は通常の社会生活にはない制約を受けるを得ないこともあります。このことを十分御理解していただき、適切な医療の提供に御協力くださるようお願いいたします。

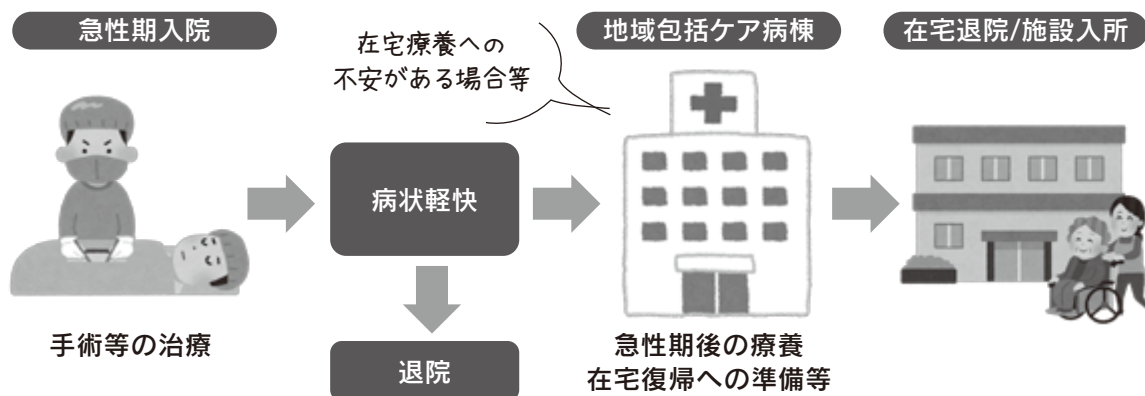
地域包括ケア病棟開設

2内科病棟は、今年2月1日より、回復期リハビリ病棟から地域包括ケア病棟へ移行し運用を開始しています。病床数は46床と変わりありませんが、入院期間は症状に応じ調整した上で保険診療上、最長60日までとなります。

「地域包括ケア病棟って何？今までとどう違うの？」と疑問に思われる方もいらっしゃると思いますので、簡単にご紹介します。

今、私達の社会は、超高齢化社会へと確実に進んでいます。2025年には、75歳以上が全人口の18%を占め、国民の3人に1人が

65歳以上となります。国は、こうした社会を見通した医療費等の社会保障安定化のため、「病院完結型」から「地域完結型」への転換を行いました。つまり、地域包括ケア病棟は、超高齢化社会における医療提供体制を安定的に維持していくための、病院機能の再編過程の中で新たな病床区分として制度設計された病棟ということになります。具体的には、急性期の治療が終了した後も、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けての『準備を整える』ための病棟です。



地域包括ケア病棟での療養を継続いただく患者さんには、これまでの病院や入院病棟からの転院、転棟をお願いすることになりますが、在宅復帰支援計画に基づき、主治医・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカー等が連携を図り、在宅復帰に向けた準備や相談といったサポートをしっかりと行っています。

患者さんへは、日中の離床を促しリハビリテーションやレクリエーションを行って、家庭生活に近い環境を作るようにしています。一人ひとりの患者さんに合ったリハビリメニューやレクリエーションを行います。

自宅や施設での生活が、なるべく入院前に近づけるよう各職種が協力しておりますので、何でもご相談ください。笑顔のスタッフが対応させていただきます。

連携医療機関のご紹介

たけとみクリニック 院長 武富 賢治 先生

〒810-0032 福岡市中央区輝国2丁目11番13-101号
TEL:092(736)5183 FAX:092(736)5185

1999年4月、在宅医療専門クリニックを開業しまして、早16年が経ちました。当クリニックは、訪問診療という定期的な診察を主体として、24時間365日体制で、夜間や休日でも患者様の状態に応じて往診を行っております。様々な病気(脳梗塞後遺症、神経疾患など)に対応しており、在宅での点滴加療、疼痛管理なども行っております。

当クリニックは多数の病院と連携しており(福岡大学病院、九州大学病院、官公立病院、近隣病院)、特にさくら病院とは密接な病院診療所連携がとれています。

信頼される地域のホームドクターを目指して、患者様が安心して治療を受けていただけるよう努めております。

できる限り患者様とご家族様のご意向を尊重し、インフォームド・コンセント(治療方針の説明と同意)を重視した治療を行っています。在宅療養をご検討の方は、たけとみクリニックにご一報ください。

(代表電話 736-5183まで)



部署
紹介

さくらユニット

さくらユニットでは、患者様やご家族の希望を尊重し、その人らしさを大切に、穏やかに過ごせるように、日々業務に取り組んでいます。病棟には音楽が流れ、ゆったりとした時間の中で、患者様やご家族が入院生活を有意義に過ごせるように心がけています。面会時間の制限もなく、大切な家族や友人、ペットと過ごす事ができます。痛みだけではなく、病気に対する不安や孤独感などの精神的苦痛、社会的苦痛やスピリチュアルな苦痛に対して、医師・看護師・医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、ボランティアと協働しながらチームでケアを行っています。

患者様やご家族に季節感や家族的な雰囲気を味わっていただきたく、年間行事にも力をそそいでいます。



雑祭り、七夕、クリスマス会、誕生日会、院外イベント、茶話会と盛りだくさんです。ボランティアの方が季節ごとに飾り付けをしてくださり、心が和みます。

スタッフは明るく、楽しい人ばかりです。気軽に話せる雰囲気を大切にしています。

これからも「さくらユニットに入院出来て良かった!」と思っていただけるように心がけていきます。

こんにちは!

医療連携相談室です。 どうぞお気軽にご相談ください。

医療連携相談室では、患者様・ご家族からの様々なご相談を承っています。

例えば、当院への入院のご相談・退院後の生活に対する不安・介護サービス等社会資源のご紹介・経済的な問題についてなど、一緒に考えさせていただきます。

また、患者様へ適切な医療が提供できるよう、地域の診療所や病院・施設・在宅サービス事業所等との連携に努めています。

どうぞお気軽にお声かけください。

医療連携相談室

TEL 092-801-7386 (事務課)

FAX 092-864-1213

担当者 医療連携相談室長

楠原 浩之

医療ソーシャルワーカー

小川 美和・松山 章子・橋迫 千佳



相談受付 平 日:午前9:00~午後5:00

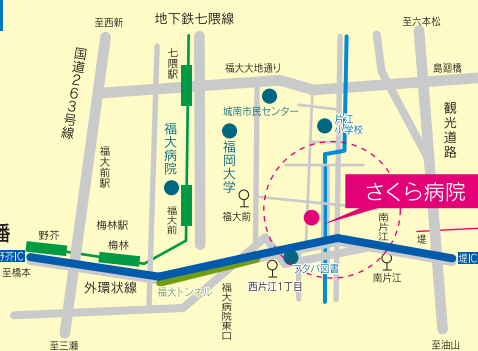
土曜日:午前9:00~午後12:30

外 来 診 察 表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科
	第2診察室	楠原 消化器科(肝臓)/内科	王寺 胃腸科/内科	秋満 循環器/内科	西本 総合診療科/内科	王寺 胃腸科/内科	楠原 消化器科(肝臓)/内科
	第3診察室	堀端 消化器科/内科	村上 心療内科/内科	天野 胃腸科/内科	天野 胃腸科/内科	古屋 消化器科/内科	井手 糖尿病外科/内科
	第5診察室		熊谷 循環器内科	岩崎 リハビリ・整形外科			崎原 総合診療科
午後	第1診察室	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	江頭(芳) 総合診療科/脳卒中・胃腸科	林 神経内科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	江頭(啓) 総合診療科/東洋医学科	
	第2診察室	秋満 循環器/内科	西本 総合診療科/内科	王寺 胃腸科/内科	楠原 緩和ケア/内科	秋満 循環器/内科	
	第3診察室	村上 心療内科/内科	知念 胃腸科/内科	佐々木(靖) 循環器(隔週)	早田 内科消化器科(肝臓)	知念 胃腸科/内科	
	第5診察室	古屋 消化器科/内科		内藤 血液・腫瘍/内科	崎原 総合診療科	中園/乙成 心療内科/内科	
専門外来(予約制)	午前		村上 心療内科 熊谷 循環器	岩崎 リハビリ外来		渡辺 呼吸器内科外来	井手 糖尿病外来
	午後	川添 神経内科 村上 心療内科		内藤 血液・腫瘍外来 佐々木(靖) 循環器外来	楠原 緩和ケア外来 早田 肝臓外来	安部 脳神経外科 中園/江藤 心療内科	

病院までの交通アクセス

- 地下鉄七隈線
(福大前下車、1番出口より徒歩10分)
- バス(西鉄バス西片江1丁目バス停下車)
西鉄バス系統番号
(天神方面より) 12,13,14,61,114,140番
(西新・飯倉方面より) 95番
(博多駅方面より) 12,13,16,18,64,114,140番
(松原・片江方面より) 6,12,13,14,16,18,61,64,95番
- 車(病院裏手に専用駐車場があります)
天神より約30分・堤ICより約5分



医療法人社団 江頭会 さくら病院
在宅医療介護センターさくら



社会福祉法人 桜花会
ライフケア大手門

社会福祉法人 桜花会
特別介護老人ホーム ライフケアしかた

社会福祉法人 桜花会
ライフケア柏原

高齢者安心ハウス
あっとほーむ片江

〒814-0142 福岡市城南区片江4丁目16-15

TEL092-864-1212 FAX092-865-4570 E-mail:info@sakurahp.or.jp

ホームページ: <http://www.sakurahp.or.jp/> (2月ホームページをリニューアルいたしました)

直通TEL

1内科 092-872-5611
2内科 092-872-5612
3内科 092-872-5613
事務所 092-801-7386
ユニット 092-872-5615